

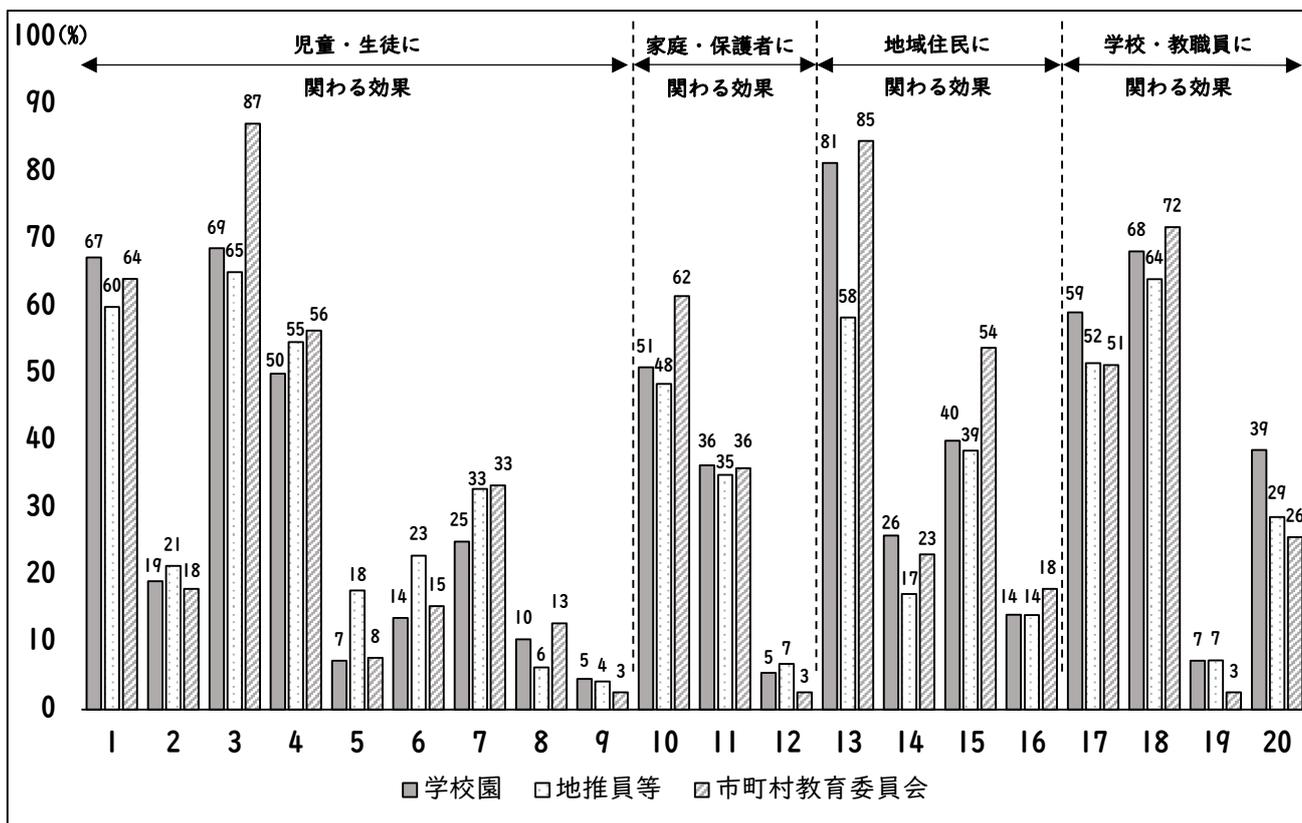
【学校園・地域学校協働活動推進員等・市町村教育委員会共通調査】

令和5年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

地域学校協働活動の効果について

学校園・地推員等・市町村教育委員会の比較

実施効果について



1. 子どもの学習に対する興味・関心や意欲の向上	11. ボランティアへの保護者の参加者数の増加
2. 子どもの学習習慣の改善	12. 家庭の教育力の向上
3. 子どもがあいさつを積極的に行うこと	13. 地域住民の学校に対する理解の深化
4. 子どもたちのコミュニケーション力の向上	14. 地域の教育力の向上
5. 子どもが自らを律し、進んできまりを守ること	15. 地域住民の生きがいづくりや自己実現
6. 子どもがリーダーシップを発揮する場面が増えること	16. 地域住民による地域課題の解決に向けての活動
7. 子ども自身が率先して、人のために行動ができること	17. ボランティアが学習支援を行うことによる教育内容の充実
8. 部活動における技術の向上(中学校・義務教育学校・高等学校のみ)	18. 子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実
9. 部活動における参加率の向上(中学校・義務教育学校・高等学校のみ)	19. 子どもたちの問題行動や不登校の減少
10. 保護者の学校に対する理解の深化	20. 教職員が子どもと向き合う時間の増加

学校園、地推員等、市町村教育委員会がともに効果を感じている内容は、以下の通りです。

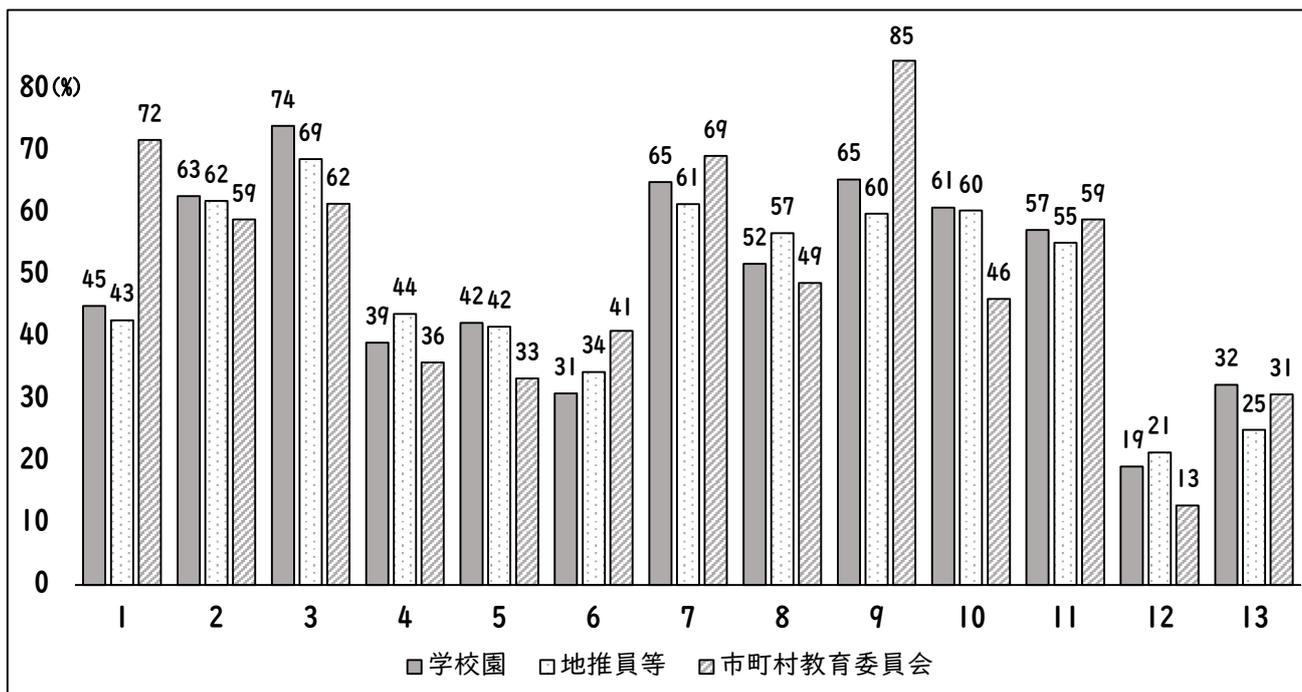
【児童・生徒に関わる効果】 「子どもの学習に対する興味・関心や意欲の向上」
「子どもがあいさつを積極的に行うこと」

【家庭・保護者に関わる効果】 「保護者の学校に対する理解の深化」

【地域住民に関わる効果】 「地域住民の学校に対する理解の深化」

【学校・教職員に関わる効果】 「ボランティアが学習支援を行うことによる教育内容の充実」
「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」

効果を生み出す要素について



- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1. 地域学校協働本部における熟議 | 8. 地推員等とボランティアとの円滑なコミュニケーション |
| 2. 学校がボランティアに期待する活動内容の明確化 | 9. 教職員の理解と協力 |
| 3. 学校が望むボランティアの確保 | 10. PTAの理解と協力 |
| 4. ボランティアの力量や意欲 | 11. 地域住民組織等の理解と協力 |
| 5. 活動内容がボランティアの特技や経験を活かしたものであること | 12. 本事業の活動場所を学校内に設置 |
| 6. 地推員等の力量や意欲の向上 | 13. 地域の教育力の向上 |
| 7. 地推員等と学校との円滑なコミュニケーション | |

地域学校協働活動の実施による効果を生み出すためには「教職員の理解と協力」や「学校が望むボランティアの確保」、「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」が必要であると感じている学校園、地推員等、市町村教育委員会の割合が高くなっています。

多くの学校において、様々な地域学校協働活動が実施されており、本実態調査においても「子どもの学習に対する興味関心や意欲の向上」や「子どもがあいさつを積極的に行うこと」に効果を感じている学校園、地推員等、市町村教育委員会が多いです。また、地域学校協働活動の実施により「教職員が子どもと向き合う時間の増加」に効果を感じている割合が昨年度よりも増加（学校園は30%から39%、市町村教育委員会は21%から26%）しています。活動を重ねるにつれて、学校と地域の役割分担が徐々に明確になることで、学校における働き方改革にもつながり、より豊かな教育活動が展開されていることがうかがえます。

地域学校協働活動の実施による効果を生み出す要素として、「教職員の理解と協力」や「学校が望むボランティアの確保」、「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」が必要であると感じている学校園、地推員等、市町村教育委員会が多いです。地域学校協働活動の効果を得るためには、学校と地域が子どものことを率直に話し合える関係の構築が重要になります。学校と地域が子どもの現状から目指す子ども像について熟議する場として「地域学校協働本部」や「学校運営協議会」の活用が考えられます。熟議を通して学校と地域が目標を共有し、各々の役割を明確にした上で地域学校協働活動を実施することが、「子どもの教育課題解決」及び「地域の教育力向上」につながります。